

## ○現行トップページのコンセプト

### PC版サイト

- 目的のページを探しやすく (カテゴリ12分類)
- 新鮮で重要な情報をピックアップ (トピックス、重要なお知らせなど)
- 重点施策のPR (危機管理、特別区制度など)

クリック  
操作

### スマホ版サイト

- 屋外でよく見られると推定される情報を厳選 (防災やイベント情報など)
- メニューは画面横幅いっぱいには伸ばし、また行間を広くとり、タッチ操作に配慮

タッチ  
操作

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少ないクリック数で目的のページへたどり着ける (PC)</li> <li>・様々なジャンルの新鮮な情報が多く掲載できる (PC、スマホ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報量が多く、慣れないと探しづらい (PC)</li> <li>・表示されないメニューがあり、探しづらい (スマホ)</li> </ul>

現在は新型コロナウイルス対策のため、「緊急情報トップページ」を作成し運用中

分析

都道府県では大阪府と同じようなデザインが主流。しかし、レスポンス対応技術の浸透等によりデザイン傾向に変化あり

情報量を少なくし、タッチしやすいパネルを並べるデザイン (フラットデザイン) ほか、特大画像の配置や、検索窓の大型化など

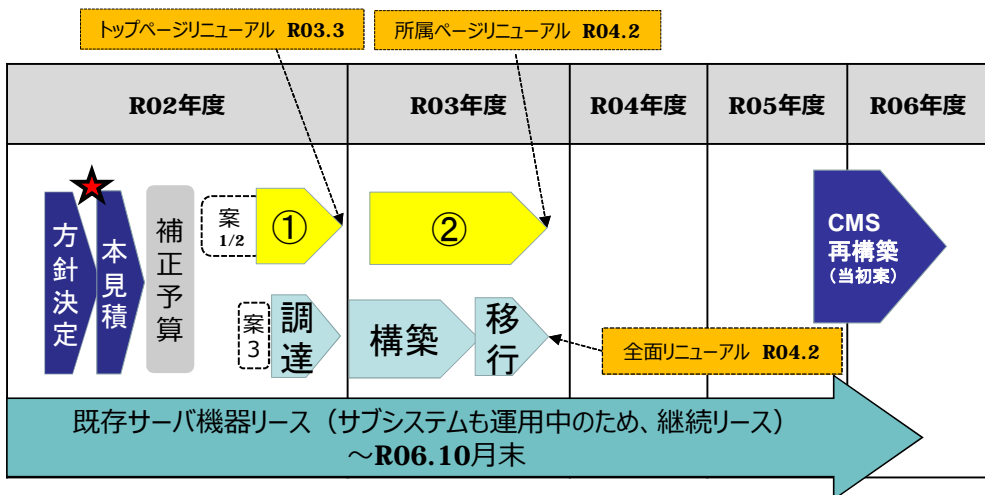
例：  
大阪市、東京都

## ○大阪府のようなパネル型の導入案

案	手順	概要	費用	開発期間	メリット	デメリット
案1	①	トップページのデザイン修正及びレスポンス対応	開発：～約900万円 (随契) 運用：約4,300万円/年 (現行どおり)	3か月	・予算確保次第、早期対応可	・各所属が作成するページがレスポンス非対応のため (スマホでの見づらさが解消できない)
	②	コンテンツ管理システム (CMS) の改修 (所属ページのレスポンス対応)	開発：～約1,600万円 (随契) 運用：約4,300万円/年 (現行どおり)	10か月	・所属ページも含めてレスポンス対応が行える	・最新のCMS製品に比しデザインが劣る ・令和6年のCMS再構築を見据えると2重投資
案3		CMS再構築 (リニューアル) (予算編成、報道発表などのサブシステム以外を新CMSへ移行)	開発：～約7,000万円 (総合評価) 運用：約3,500万円/年 (新CMS) +約1,400万円/年 (サブシステム)	12か月	・抜本的なリニューアルが可能 ・デザイン等の提案を得られる ・チャットボット等、後からの導入が比較的容易	・新システム用のサーバ機器の調達 (リース) が必要であり、機器の2重払いが発生 (現行サブシステム運用継続のため現行機器は解約不可) ・ページ移行期間が短く、各部局での移行結果確認の負担大

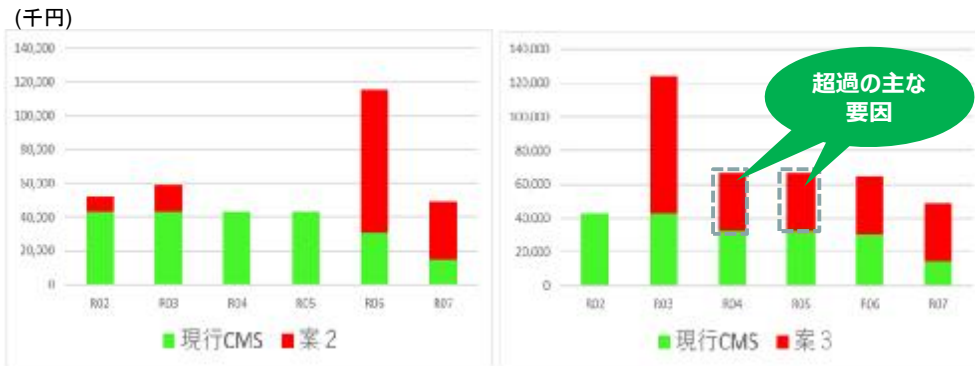
クラウド  
が必須

## ○実施スケジュール ※R2年度9月補正予算で措置する場合を想定



## ○費用

※令和6年度までのトータル費用として、案3は案2に比べて約5,300万円超過と推計 (R04, R05の新CMSサーバ賃借・運用費が要因)

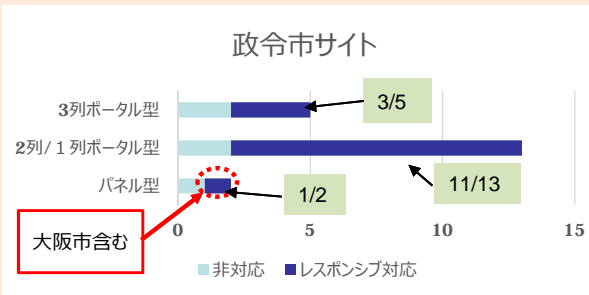
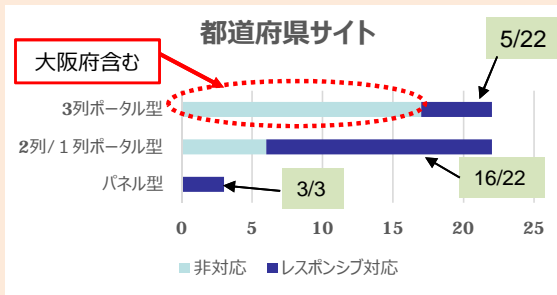


## ○ 都道府県、政令市のトップページの状況

分析

都道府県では3列ポータル型がまだまだ多い。  
しかし、レスポンス対応技術の浸透等によりデザイン傾向に変化あり

2列/1列ポータル型、パネル型  
特大画像の配置、検索重視など



【パネル型】 東京都、岡山県、大阪市

- ：広く知ってもらいたい情報をテーマ別にわかりやすく発信できる
- △：情報量が極端に減少する（庁内調整の必要）

【2列/1列ポータル型】 長野県、神戸市

- ：情報量を抑えつつ、大きいメニュー枠を確保できる。パネル型ほどメニューを厳選する必要がなく、自由度も高い。
- △：やや中途半端（検索窓+注目ワードや、目的別メニューを設置するアレンジあり）